



市民プール跡地を活用した屋外飛行場。広々とした敷地をドローンが飛ぶ



屋内飛行場に設けた障害物をくぐり抜けるドローン＝いずれも美濃市曾代、ドローンミュージアム&パークみの

500円玉大の超小型ドローン。本体や関連パーツもそろった



memo

ドローンの普及を目的に11月に開館。旧美濃市勤労青少年ホームの建物に、空撮用やレース用など大小120台のドローンを展示する。屋内練習場のほか、市民プール跡地を使った約6000平方メートルの屋外練習場があり、ドローンスクールや体験教室を開いている。

空の産業革命 拠点に

「空の産業革命」といわれるドローン。興味はあるが、どうしたら飛べるのか分からない。国内唯一のドローンミュージアムはそんな数居の高低をべっと下げてくれる場所だ。施設を運営する「ROBO Z(ロボッツ)」の石田宏樹社長(47)も、ドローンの可能性に魅せられた一人。「ドローンで撮影した映像の美しさ

や、飛行性能の高さにピンときた。利用者の裾野を広げる拠点になれば」と話す。500円玉大の超小型機や翼長2メートルを超えるもの、水中ドローンと展示機は多彩。廊下や階段など、建物全体が練習コースになっている。農業散布や建造物の調査などに役立つ実用機を見比べることもでき、活用法を相談しに続々と人が訪れている。中山間地を多く擁する岐阜県は飛行には好立地で、利用シーンも多い。岐阜は「空に一番近い場所」になる可能性を秘めている。

文・写真 亀山大樹
(岐阜新聞Webに動画)



空撮用やレース用など、さまざまなドローンを展示するミュージアム